

登山月報



JMSCA 登山月報 第649号 令和5年4月15日発行



利尻山南稜 / 写真提供:北海道山岳連盟 石井昭彦

8月11日 みんなで山を考えよう!
 祝「山の目」
 全国「山の目」協議会 山に親しむ機会を得て 山の恩恵に感謝する

リードジャパンカップ (LJC2023) Report.....	2
スピードジャパンカップ2023 / 第3回スピードユース日本選手権千葉大会 ..	4
群馬県谷川岳 令和4年度氷雪技術研修会、主任検定員A養成講習会、コーチ2養成講習会報告 ..	5
Enjoy Climbing	6
香川県山岳・スポーツクライミング連盟自然保護委員会のSDGsな活動...	8
令和4年度 東北ブロック高体連登山専門部研修会 報告	9
JMSCA、表紙のことば、編集後記	11

No.649

リードジャパンカップ (LJC2023) Report

実行委員長 村岡正己

日時：2023年2月25日(予選)、26日(準決勝、決勝)
会場：千葉県印西市の松山下公園総合体育館

【競技】

25日の予選、26日の準決勝では、いつものように女子は森秋彩、男子はこのところ伸びてきている安楽宙斗が1位通過した。

決勝では、予選2位、準決勝2位の小侯史温が高度38+まで到達。カウントダウンで首位に立つ。最後の安楽宙斗は、中盤の+25に終わり小侯が初優勝を勝ち取る。

男子表彰台は、10代が独占、新たな時代の幕開けとなった。

女子決勝は、スタートでややリーチが要求されるムーブ。そこを失敗する選手が出るなか、低身長であるが谷

井菜月、森秋彩は確実にスタート。50手ほどのロングルート。そして、想定通り、谷井、森が上部まで迫るパフォーマンスを展開。森が46+で優勝(4大会連続6度目)を勝ち取る。

また、野中生萌が、やや苦手のリードで3位に入り、パリに向けての意気込みを感じた。

そして、セッター(セッターコメント参照)の今回のポリシーである「選手自身が持っている自力を、どこまで出し切れるか……」を、実現できた大会になった。

【運営】

①入場者数

予選 465人(内、一般192人、メディア27人)

準決勝・決勝 479人(内、一般249、メディア40人)

②クリッピング(25~27日)

Web 34件

新聞 18件

T V 8件

③Youtube

予選 視聴 1234

Chat 244

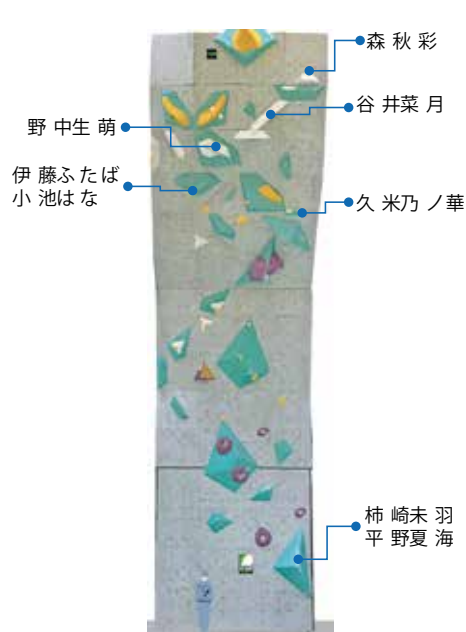
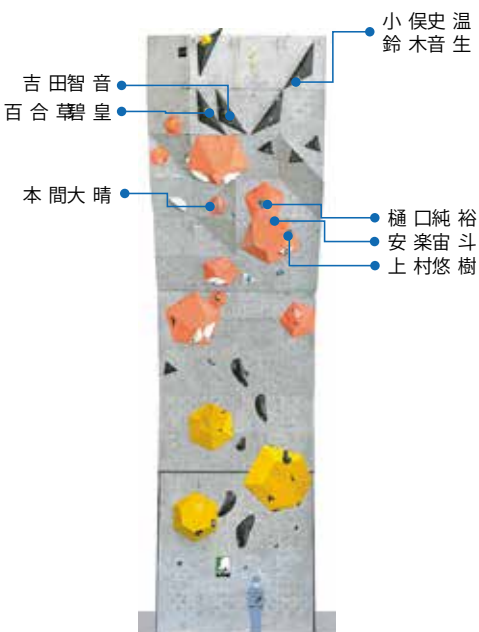
決勝 視聴 3605

Chat 1104

視聴数、昨年より決勝で23%減の状況。有観客の影響? もあると考える。

男子		決勝		準決勝		予選		
順位	氏名	BIB	高度	順位	高度	順位	A	B
1	小侯 史温	M02	38+	2	42	2	TOP	35+
2	鈴木 音生	M54	38+	7	39+	12	31+	35
3	吉田 智音	M43	35+	3	42	6	31+	35+
4	百合草碧皇	M19	34+	4	41+	12	31	35+
5	本間 大晴	M39	28+	5	40+	4	TOP	32+
6	樋口 純裕	M21	26+	6	39+	6	31+	35+
7	安楽 宙斗	M26	25+	1	42+	1	TOP	36+
8	上村 悠樹	M48	24+	8	39+	15	31+	34+

女子		決勝		準決勝		予選		
順位	氏名	BIB	高度	順位	高度	順位	A	B
1	森 秋彩	W22	46+	1	TOP	1	TOP	TOP
2	谷井 菜月	W12	43+	2	38	2	35+	TOP
3	野中 生萌	W08	36+	7	32	6	33	37+
4	伊藤ふたば	W35	34+	5	33+	7	33	36+
5	小池 はな	W39	34+	8	31+	5	33+	37+
6	久米乃ノ華	W29	28+	3	37	4	33+	38
7	柿崎 未羽	W40	1+	4	34+	14	25+	35
8	平野 夏海	W28	1+	6	32+	12	25+	36+



ルートセッターチーフ 伊藤剛史

ポリシー

今大会のセットで最も注力したことは、ロープをつけたボルダーではなく、肘が上がってきてもそこを押し切っていく、リードはリードにしか無い面白いところ「選手自身が持っている自力を、どこまで出し切れるか」でした。

その中で我々ができることは、古き良きリードのスタイルを継承しながら、新しいスタイルに置き換えていくことで、変化のあった大会になったかとは思います。

課題

ホールド (volumes) の設置、施設の時間制限について

- volumes が年々大きくなっているが、作業車が使用できないと時間内にルートセットできない。
- 作業車だけの問題でなく、準決勝、決勝のルート変更時間に時間がないため、決勝のための細やかな調整を行えない。←これは大きな課題に感じます。
- 施設の時間制限によりミスを誘発する (ex 危険箇所、団子ポイントの修正等が詰めきれない)。

副実行委員長 目次俊夫

2023年国際大会リード種目の代表選考会となるL J C 2023が2月25,26日に印西市松山下公園総合体育館で開催され、地元印西市をはじめ多くの皆様のご協力により無事終了しました。関係された皆様にあらためて厚く御礼申し上げます

新型コロナウイルスの感染状況も落ち着き、昨年と違ってワクチン・検査パッケージは適用せず、当日の健康チェックと検温、消毒のみでの入場となりました。一日目の予選は無料、二日目の準決勝と決勝は有料での有観客で実施され、二日目の観戦チケットは大会数日前に予約で完売し、当日販売は無しというのは、これまでの記憶に無い出来事でした。

競技は、男女2ルートずつ4ルート同時進行で進められた予選に男子55人、女子54人が出場し、男子は26位タイ3人を含む28人、女子は26人が二日目の準決勝に進出。予選の完登者は男子Aルートが安楽宙斗、小俣史温、本間大晴、亀山凌平選手の4選手でBルートは無し。女子はAルートが森秋彩、谷井菜月の2選手でBルートは森秋彩選手のみ、男女を通じて両ルート完登は森秋彩選手1人でした。男子予選Aルートで31+の成績が選手の半数を超える29人になったのはルートセッターの想定外の出来事だったと思われます。準決勝では男子の完登者はなく、女子は森秋彩選手がただ1人完登し、男女ともに8位の成績の選手は予選カウントバックで決まって8人が決勝に進出。男子決勝は、ウォール上部の青いポケットホールドが連続する箇所の手順の読みが順位を大きく左右する結果となり、その箇所を迷わずスムーズに通過した、予選、準決勝ともに2位の小俣史温選手が鈴木音生選手と同じ38+となりカウントバックで初優勝を達成、決勝同高度の鈴木選手が2位、3位には昨年優勝の吉田智音選手が入りました。予選、準決勝ともに1位通過の安楽宙斗選手は手順に迷ったせいか惜しくもフォールして7位。女子決勝は、森秋彩選手が予選からの全完登こそ逃したものの他を圧する安定した強さで優勝して大会4連覇を達成。2位が谷井菜月選手、3位が野中生萌選手。野中選手はB J C優勝の伊藤ふたば選手と共にリードに力を入れている成果が感じられる登りでした。男女ともに優勝者をはじめ、決勝進出者の大半を10代選手が占めるなど、若手の活躍が光る大会でした。今年の大大会のルートは予選から決勝まで、ランジなどの派手な場面は余りなかった半面、ルートの読み、手順やムーヴを間違えると一気に疲労してしまうリードらしいだったと言われていますが、決勝は最もそれらしさが現れていたように思えます。悔しい思いをした選手は今後の大会でのリベンジ、そし



て日本代表に決まった選手は国際大会の舞台、そしてパリオリンピック出場を目指しての活躍をお祈りいたします。

会場となった印西市松山下公園総合体育館は2010年3月に新設され、同年10月に開催されたゆめ半島千葉国体の会場となって以来、9年連続開催のユース日本選手権や2012年、2014年、2019年の3回開催されたIFSCリードワールドカップ、そしてリードジャパンカップなど、14年間続けて毎年、全国大会や国際大会の会場となってきましたが、来年は年明け早々から約6ヶ月間、メインアリーナの床面改修工事が予定されているため、大会も一般利用もできなくなり、一つの区切りを迎えます。準備から大会、復旧まで天候の心配なくできる利便さは大変貴重で、多くの選手たちが競い合う場として活用されてきました。長年関わり、大会運営に慣れた多く

の地元ボランティアスタッフの存在も貴重な財産です。

今では全国各地域に多くのクライミング施設ができ、いろいろな大会が開催されるようになりましたが、今後は、世界一の日本選手の競技力レベルに見合うような本格的な屋内型クライミング施設が国内に一日も早く完成することが望まれます。



スピードジャパンカップ2023 / 第3回スピードユース日本選手権千葉大会

大会副実行委員長 / テクニカル・デリゲイト 百瀬 恭平

2023年3月8日、千葉県千葉市の千葉県立幕張総合高等学校クライミングウォールにてスピードジャパンカップ2023(SJC2023)および第3回スピードユース日本選手権千葉大会(SYC2023)が開催された。昨年度までとは会場を変えての実施。

第3回スピードユース日本選手権千葉大会

午前は例年通りSYCを開催。合計で42名の選手が出場し、各年齢グループとも熱い争いが繰り広げられた。それぞれの入賞者は下記の通り(紙面の都合上、記録については省略。大会Webサイトを参照)。

ジュニア			
男子		女子	
1位	真鍋 竜	1位	竹内 亜衣
2位	藤野 柊斗	2位	林 かりん
3位	山本 恭也	3位	鈴木可菜美

ユースA			
男子		女子	
1位	田淵 幹規	1位	金谷 春佳
2位	上柿 銀大	2位	川村 鞠采
3位	谷井 和季	3位	南 有紗

ユースB			
男子		女子	
1位	石田 観千	1位	小屋松 恋
2位	大杉 金剛	2位	麦島 心花
3位	倉本 心温	3位	西村 優杏

スピードジャパンカップ2023

午後からはSJCを開催。午前のSYCに出場した選手も多くが出場し、スピード種目日本一の座を争った。出場選手は31名(男子20名、女子11名)。男子決勝のビッグ・ファイナルでは安川潤選手が5.33の日本記録をたたき出し、初優勝を飾った。女子は、午前中のSYC / ジュニアで2位だった林かりん選手が、こちらも同じく初優勝を飾った。他にも予選・決勝それぞれのラウンドで年齢別日本記録が誕生している(詳しくはJMSCA Webサイトを参照)。

男子

		ビッグ・ファイナル	スモール・ファイナル
1位	安川 潤	5.33	—
2位	田淵 幹規	5.50	—
3位	池田 雄大	—	5.84

女子

		ビッグ・ファイナル	スモール・ファイナル
1位	林 かりん	7.70	—
2位	河上 史佳	8.07	—
3位	金谷 春佳	—	12.63



スタッフによる集合写真

【来場者等】

- 観客 138名
- スタッフ 95名（協力事業者等含む）
- VIP 12名
- メディア 12社25名

【大会総括】

SJCは4回目、SYCは3回目の開催となり、ますます選手のレベルアップが目を見張るものとなってきている。スピード種目を専門として取り組む選手も増え、リードやボルダーと同様、国際的な舞台で戦える水準に達してきていると感じる。大会主催者としてもそうした選手による日本一を決める競技会としてふさわしい運営に引き続き努めていきたい。

最後に、主管団体として大会運営に尽力いただいた千葉県山岳・スポーツクライミング協会をはじめ、関係のみなさまに改めてお礼を申し上げます。



男女優勝者
左：安川潤選手
右：林かりん選手

群馬県谷川岳 令和4年度 氷雪技術研修会、主任検定員A養成講習会、 コーチ2養成講習会報告

令和5年3月18日(土)～19日(日)

2月の大山に続き、群馬県谷川岳において氷雪技術研修会および主任検定員A養成講習会、コーチ2養成講習会が谷川岳にて開催された。

今回は研修7名、A級主任検定4名、コーチ2養成講習10名、講師5名、群馬県スタッフ2名の計28名での開催となった。

昨年に引き続き谷川岳開拓の宿として1931年創業、土合山の家を起点とし、周辺の雪渓で講習が行えた。主任検定A、コーチ2の受講者の参加者が多く、検定試験の実施に際し緊張感が感じられつつ、充実した講習が行われたものと思います。群馬県山岳・スポーツクライミング連盟の皆様には事前準備からご尽力いただきまして誠にありがとうございました。

以下に参加者の代表の感想を掲載いたします。

(指導委員会 野村善弥)

受講生感想

コーチ2養成講習会を受講して

長野県山岳協会 アートウォールクラブ 及川 真弓

勉強不足で申し訳ないが、実はコーチ2について、コーチ1の上級の資格という認識だけで、コーチ1は縦走登山が中心でコーチ2は登攀が中心ということを講

義を聞いて初めて知った。検定内容は難しいのではと少し不安になったが、講習を受けるうちに、大切なのは技術の難易度ではなく「指導する力」だとわかった。講習会なので、まずは指導するための指導を受けることになる。特に、堤さんの実演を交えた講義はとても分かりやすかった。検定で実施する技術内容と原理や手順についての講義である。雪上の実技だが室内で行われた。

講義には地上部分のみのピッケルの模型が使用され、室内であっても雪上のイメージが持ちやすいように工夫されていた。人間は多くの情報を視覚によって得ていると言われていたが、実際に見ることができ理解がしやすかった。

屋外での講習は夏でも冬でも天候に左右されてしまう。実際に当日は雨で屋外となるとかなり気合の必要な状況だったが、屋内で説明を受けることで、講義内容に集中できた。また、受講生1人1人に語り掛けるように話してくださるので自然と集中できたし、関連するエピソードや笑いを取り入れることで緊張の中でも楽しく聞くことができた。

講義を受けた後は1日目2日目ともに指導実技のデモンストレーションと班に分かれての練習。講師はとても丁寧に指導して下さり、合間でコツや技術情報、経験談などがあり、指導方法だけにとどまらず、とてもためになるものだった。そして最後に検定!!

登山は自然の中で行うもので、時期、天候、場所、人など様々な条件によって、常に異なる状況となる。1つ



1つの技術について手順を追うだけでなく、何のために行うのか、どのような原理が応用されたものなのか、正しく理解していなければ、状況に応じた技術を、的確に安全に使用することができない。指導においては、必要な情報、重要なポイントを、整理してシンプルな形にして伝えること。また、なぜそのようにしなければならないのかを伝えなければならないことを改めて感じた。教え方1つで理解が変わり、安全にも直結する。伝えるための工夫をし、経験を積んでより伝わる指導力を身に着けたいと思った。

氷雪技術研修会に参加して

東京都山岳連盟 八王子山の会 浅岡 準一

所属山岳会で指導する立場になりつつも、私自身知識はまだまだと感じていて悩んでいる中でJMSCA主催の氷雪技術研修会があることを紹介いただき、技術を修得したいと思い参加させていただいた。

1日目は他講習グループと合同の机上講習から始まり、小雨が降る状況だったために室内へ変更してスタン

ディングアックスビレーを繰り返し練習した。夕食時は講習生の自己紹介を交えながら交流を深めることができた。

2日目は天気が快晴に変わって1日目で教わった技術を早速実践した。まずは氷雪技術の基本となる雪上歩行から耐風姿勢、滑落停止を復習、講師である堤先生から足の置き方やピッケルの刺す角度など細かな箇所を指摘され、癖になっている部分を徹底的に見直した。いよいよスタンディングアックスビレーをやってみると滑落者の衝撃を与えないよう谷側の腕をコントロールするのに苦戦したが、堤先生からアドバイスをいただき次第に静かに停止させることができた。その後のロープの固定も時間の許す限り繰り返し練習することで一連の動作を身に付けることができた。

2日間を通して技術の確認から最新技術の修得することができ、有意義な研修会となった。今回の研修会で得られた技術を復習して、所属山岳会でも活かせるようにしていきたい。

Enjoy Climbing

【連載5】 横山勝丘

登攀は続く、困難は増すばかり

3日目は、広大な岩壁のド真ん中に延びるヒレのようなフレークが折り重なったような形状の岩登りから始まった。グレードは5.10程度だろうか。ガバが多くて技術的困難はそれほどでもないが、恐ろしい音を立てるフレークにプロテクションを決めなければならず、慎重さが求められる。フォローならば、そんなことは考えずにフリーに徹することができるかと思いきや、相変わらず私の体調はすぐれず、当たり前のようにフォローでは

なくユマーリングする。

ワイドクラックにプロテクションの取れないスラブ。弱点を求めてリッジを左から巻けるかと思いきや、目の前には虚空が広がる。そんな事の繰り返しで、時間だけはあっという間に過ぎてゆく。ルートファインディングの難しい岩を5ピッチ登って、ようやく第二岩壁を越えた。

しかし目の前には弱点がまるでないダイヤモンド型の岩峰が現れた。行き場を失い、東側に4ピッチの懸垂下降でジャパニーズクーロワールに合流する。この懸垂下降も一筋縄ではいかなかった。ロープは濡れた脆い岩に引っかかるし、クーロワールに合流する最後の一回は空中懸垂となった。

それに、シットスタートに拘るのにここは巻くのか？という矛盾は隠しようもない。理想の追及と妥協の繰り返

返し。でも、いざ本番が始まってしまえば妥協もそこまで心苦しくない。なんだかんだ言っても山では上を目指すことがプライオリティだし、理想を掲げる余裕などとうにない。

いずれにしても、これで既存のルートに合流したことになる。この先は、1984年に東大隊によって登られている。もはや苦勞することは無いだろうと、根拠はないが自分自身に思い込ませて気持ちをポジティブに保つ。ガリーの同時登攀は、珍しく私がリードで進む。岩のセクションは鳴海、雪と氷は私がリードするというのが取り決めだからだ。しかしクライミング的にはまるで面白くない。機械的にアックスを振り、クランポンを蹴り込み、ただ頭上に見えるコルを目指すのみ。

コルからは同時登攀と数ピッチのクライミングで、フォートレスと呼ばれる標高差300メートル近い岩壁の基部に出る。すでに辺りは真っ暗。と、これ以上ないと言わんばかりの最高のビバーク地を発見する。セルフを取る必要のない真っ平らな雪面で、しかも岩の基部なので雪崩や落石からも守られている。毎日登攀では苦勞させられるが、例外なく素晴らしいビバーク地を発見できているのは、かなりのアドバンテージだ。この夜も快適に眠る。

4日目。天気は下降線を辿っているのか、視界は悪く、小雪が舞う。いよいよ懸案だったフォートレスの登攀だ。見るからに核心の一つと思えるような風貌だが、40年近くも昔に日本人が登っているという情報は、「ま、どうにかなるでしょ」という安心感を生み出す。逆に言えば、もうそこに存在する未知と、それに伴う冒険の要素は半減してしまっている。それをどう捉えるかはその人やその状況によっても異なるが、この南西稜の登攀は、未知という面では目をつぶらなければいけない。ここに至るまでの間、誰も足を踏み入れていないのが最下部だけなのは知っていた。ここで必要なのは、「ラインを繋げる」という行為。言ってみれば、フリークライミングのレッドポイントトライのようなものなのだ。そこに価値を見いだせるかどうか？ それはそのラインの存在感に左右されるが、私と鳴海にとってのK7主峰南西稜は、それだけのものがある。

しかし、事前に得ていた情報を頼りに左端のチムニーを目指したが、東大隊の打ったリングボルトのビレイ点はあるものの、頭上のチムニーには残置プロテクションが一切見当たらないし、プロテクションを取るのも難しく思える。そもそも、登ることそのものが非常に困難に思える。それでも、「でも40年前には。。。」という決まり文句が頭から離れず、出だしの数メートルを登ってみ



「核心となったフォートレスを登る横山」

撮影：鳴海玄希

る。二度トライして、プロテクションの脆弱さと傾斜の強さに恐れをなしてビレイ点まで戻る。それでようやく、ここじゃないと理解した。おそらく、この40年の間に氷はすっかり消え失せてしまっていて、ラインそのものが存在していないのだろう。嗚呼、一体何をやっているんだらう。登るラインは、自分の目で見て心で感じて決定するものなのに。

気を取り直して一つ右のチムニーを探ると、そこには細い氷柱がズドンと伸びている。困難は予想されたが、どうにかなりそうだ。意を決してここを登ることに決める。

狭いガリーに張り付いた薄い氷。この標高でこれだけテクニカルな氷を登った記憶はあまりない。最上部では氷もなくなり、スモールカムを掛けかえてのエイドも入った。デリケートかつパワフルな3ピッチで傾斜は少し緩くなった。さらに、雪の降る中複雑な岩壁に食い込んだ氷を繋いで3ピッチ。丸一日かけて、ようやくフォートレスを越える事ができた。

ここから先は、もう難しい場所はないはずだ。しかしすでに日は暮れ、早くビバーク地を探す必要がある。だけどどれだけ登り続けても氷の傾斜は非常に強いままで、とてもじゃないけどビバークできるような場所はない。仕方なく、標高で100メートル近く下げた狭いテラスまで戻ることにした。今日一日の進捗は非常に少ないが、それでも上には進んでいる。気持ちだけは折れないように。

香川県山岳・スポーツクライミング連盟自然保護委員会のSDGsな活動

本連盟は、1953年（昭和28年）9月に香川県山岳連盟として創設された後、2019年（令和元年）5月に現在の名称に改称しました。香川県下の山岳会5団体、スポーツクライミング3団体、高体連の合計9団体で構成されています。

本連盟が行う自然保護活動は、環境月間でもある6月に小豆島を舞台に実施（主管は小豆島山の会）している清掃登山で、令和4年には実に49回目を迎えています。小豆島は高松港からフェリーで1時間、人口は約2.5万人の島です。最高峰の星ヶ城山（標高816m）の南西側には瀬戸内海国立公園を象徴する名勝「寒霞溪」があります。清掃登山は、土庄町側から寒霞溪に向かう観光道路「小豆島スカイライン」と小豆島町側から寒霞溪へ向かう「小豆島ブルーライン」の二手に分かれて合計7kmの区間で実施しています。

令和4年6月19日（日）には19名が参加。土庄町側からは銚子溪駐車場（標高320m）を出発して四方指展望台（標高776m）までの約4kmを2時間半かけて進みます。沿線には人家が無いので歩道は整備されておらず、島に着いたフェリーから降りた観光バスやマイカー、バイクなどが走り抜けていく横を手には軍手を履き、火箸と回収用の袋を持って歩きます。道路沿いの山林には飲料水の空き缶やペットボトル、コンビニやスーパーで買って食べ終えたパックや箸が袋に入れられたゴミなどがあり、これらを見つけるたびに山に分け入り、一つ一つ回収します。かつてはタバコの空き箱が多く捨てられていましたが、最近は減ってきたと感じています。これらのゴミは、道の南側の山林が路面よりも低いため、山を下る車中から投げ捨てられたものです。ゴール地点では二手合わせて軽トラックの荷台に満載のゴミが集まりました。記念撮影のあと、昼食。サプライズで自家製羊羹の振る舞いを受けて、その美味しさに感激の声が出るなど、各会員同士の交流の場としても大切な行事で



小豆島スカイラインを歩行中の状況



回収したゴミ

す。高松から参加する参加者も小豆島での活動が有意義なものになるように、前日に吉田の岩場でクライミングの練習をして島内で一泊、翌日に清掃登山に参加しています。

私たちは美しい瀬戸内海国立公園、美しい小豆島の自然を保護し、保っていく活動である清掃登山を継続することに努めます。また、この活動の実施状況を本連盟のホームページで周知し、多くの皆様を知っていただけるようにしたいと考えています。

（香川県山岳・スポーツクライミング連盟自然保護委員長 武川秀樹）

寄贈図書

(公財)健康・体力づくり事業財団	「健康づくり」No.539	会報
山と溪谷社	「ROCK & SNOW」No.99	雑誌
特定非営利活動法人日本トレーニング指導者協会	「JATI EXPRESS」第93号	新聞
㈱日本運動具新報社	「スポーツ産業新報」No.2390～92	新聞
Corean Alpine Club	「山(山)」2023年2月号 Vol.277号	会報
高知県山岳連盟	創立75周年記念誌 2023	会報
(公社)日本武術太極拳連盟	「武術太極拳」No.397	会報
㈱ネイチャアエンタープライズ	「岳人」春山 No.910	情報誌
(公財)日本スポーツ協会	「Sport Japan」vol.66	会報
(公財)日本スポーツ協会	「JSPQスポーツニュース」Vol.148、「JSPQフェアプレニュース」Vol.148	会報
(株)山と溪谷社	「山と溪谷」4月号 No.1062	雑誌
(公財)埼玉県スポーツ協会	「スポーツ埼玉」冬 No.297	会報
立山・剱岳方面避難対策協議会 富山県上市警察署	「山岳避難白書 試練と憧れ」第39号 2冊	会報
(株)エイアンドエフ	「A & F COUNTRY 2023」	情報誌
富山県山岳遭難対策協議会	「山嶺」令和4年の山岳遭難防止活動 No.32	会報
独立行政法人日本スポーツ振興センター国立登山研修所	「新・高みへのステップ」第4部、第5部	贈
長野県山岳協会	「やまなみ」No.248	会報

特定非営利活動法人日本スポーツ芸術協会	「スポーツ芸術 March2023」	広報誌
(公財)日本ゲートボール連合	「ゲートボール Navij」Mar.2023	情報誌
(公社)日本山岳会山梨支部	「甲斐山岳 2023年3月 第14号」	会報
明治大学山岳部炉辺会	「炉辺通信」No.201 3/15発行	会報
認定NPO法人富士山測候所を活用する会	#16成果報告会予稿集	会報
東京野歩路会	「山嶺」Vol.100 No.1117	会報
公益社団法人日本山岳会	「山」3月号 No.934	会報
新潟県山岳協会	「新山協ニュース」第365号	会報
京都府スポーツ協会	「スポーツ時報」第139号 2023.3	会報
(公財)日本アンチ・ドーピング機構 事務局	発行冊子「国内の連携体制と再始動する国際的な交流」	会報
おいらく山岳会	「山行手帖」No.760 '23.4	会報
日本スポーツマンクラブ財団	日本スポーツマンクラブ財団会報 第173号	会報
日本ヒマラヤ協会	「HIMALAYA」No.504	会報
札幌市 阿部幹雄	執筆本「雪崩教本」2冊	贈
東京都政策企画局オリパラ調整部管理課	第32回オリンピック競技大会(2020東京)/東京2020パラリンピック競技大会報告書及び記録集	贈

令和4年度 東北ブロック高体連登山専門部研修会 報告

宮城県仙台三桜高等学校 教諭 池田 秀樹 (宮城県高等学校体育連盟登山専門部専門委員長)

東北6県で輪番開催している「東北高体連顧問研修会」を、コロナ禍による中止期間を経て3年ぶりに開催することができた。今年の担当県は宮城県で、令和5年2月10～12日の3日間、東北6県から高校山岳部顧問の先生方29名と講師・実技指導員2名の計31名が栗駒山の中腹にあるハイルザーム栗駒に集結した。この研修会は、通常ならば山スキーやワカンによる雪上登山行動訓練が中心であるのだが、今回は雪崩ビーコンを用いた搜索訓練を含めた『雪崩リスクマネジメント全般の座学+実技講習』という異色の内容で実施した。栃木県の雪崩事故後に、宮城県高体連で継続開催している雪崩搜索訓練を自分たちで再度確認して、雪崩リスクが身近にある東北地区の顧問の先生方にも広めていこう、という趣旨である。このような内容であるため、講師謝礼以外に、様々な雪崩搜索物品(雪崩ビーコンや雪崩プローブ(ゾンデ棒)は、各県の予算で少しずつ購入・更新していたが、それ以外のスノースコップや雪質観察用の様々な物品類)の新規購入が必要になって困っていたところ、日本山岳・スポーツクライミング協会が高校山岳部顧問の育成のために「高等学校登山指導者ブロック別研修会」制度(補助金15万円)を準備してくださっていることを知り、今回活用させていただいた。この場をお借りして、改めて感謝申し上げる次第である。

研修会の内容について、簡単にご報告する。

<室内実技>

- 雪崩ビーコンの装着法、使い方、各種モード等の確認

<屋外実技>

- 積雪観察(太陽光透かし法、スノーピットでの雪質観察、ブラシを使って雪質の層構造を観察、カードを使って積雪の硬さの違いを確認)

- 積雪安定性(弱層)テスト(チルトテストTT/コンプレッションテストCT/エクステンデッドコラムテストECT)
- プローブの使い方(直角刺し、同心円プロービング、ラインプロービング)
- 半身埋没体験、掘り出し方(スノーコンベアベルト法)
- ビーコンの初歩(サークル法による雪崩ビーコンの理解、ライン法による受信距離の違い、ピット法による深さ表示の違い)
- ファイン&クロスサーチの演習(ベースラインを意識、矢印の消える距離の確認、センタリング、オーバーポイントと最小値の確認)
- 初動搜索訓練

①ローラー法による搜索(埋没ビーコン1個。シグナルサーチ⇒コースサーチ⇒ファイン&クロスサーチ⇒ピンポイントング⇒掘り出し)

②複数埋没搜索(埋没ビーコン2個。シグナルサーチ⇒コースサーチ⇒ファイン&クロスサーチ⇒ピンポイントング⇒マーキング⇒次のシグナルへ)

③代替サーチによる近接埋没搜索(マイクロサーチストリップ基本形。6メートル以内に埋没ビーコン2個)

<座学>

- 雪質・雪氷について
- 雪崩事故を知る・リスクマネジメント
- 雪崩サーチ&レスキュー
- 寒冷期の登山医学～寒さと人体～

<講師>

- 大江 洋文 氏(国際山岳医、宮城県成人病予防協会)
- 市川 敬行 氏(前宮城県高等学校体育連盟登山専門部長)
- 宮城県高等学校体育連盟登山専門部常任委員、宮城県内高校山岳部顧問



第59回 海外登山技術研究会 2023

6月3日(土) 13:30 開場

海外登山報告 2022

13:50-15:40

【パキスタン】 K7 主峰(6934m)南西稜
講師 横山 勝丘

パキスタン渉外活動報告
講師 鳴海 玄希

15:50-16:40

【ネパール】 チェキゴ峰(6257m)南フェース
講師 馬目 弘仁

16:50-17:40

【アルゼンチン】 2022-23 パタゴニア/現地最新情報
講師 小峰 直城

懇親会 19:00~(一般参加可)

6月4日(日) 9:30 開場

【特別講演】

講師 山野井 泰史 10:00-11:30

【座談会】 パタゴニア今昔 11:40-13:00

山野井泰史×横山勝丘×馬目弘仁×
鳴海玄希×小峰直城×岩崎洋(JMSCA 国際・AC委員長)

※都合により日程および内容を変更する場合があります。

主催：JMSCA 日本山岳・スポーツクライミング協会
主管：福井県山岳連盟 海外委員会
企画・運営：JMSCA 国際・AC委員会

◎参加費

資料代として 一般2,000円(両日有効) 学生&10代 無料

宿泊参加 10,000円(資料代+宿泊+朝食代を含む)

※懇親会参加の方は別途(4,000円程度)申し受けます(19歳以下半額)

◎会場

6月3日：福井駅前アオッサ 6F 福井市地域交流プラザ 601ABC

6月4日：福井駅前アオッサ 7F 福井県ボランティア協会 706・707号室

主催・問い合わせ・申込み

公益社団法人 JMSCA 日本山岳・スポーツクライミング協会

事務局：〒160-0013 東京都新宿区霞ヶ丘町 4-2 JAPAN SPORT OLYMPIC SQUARE 807

電話：03-5843-1631 FAX：03-5843-1635 Mail：info@jma-sangaku.or.jp



詳細は【JMSCA HP】をご覧ください。

○日 時：令和5年1月12日(木)
14時～16時35分

○場 所：J S O Sビル3F 会議室1

○出席者：丸会長、亀山、小日向、古賀各副会長、小野寺専務理事、相良、蛭田、町田各常務理事、前田、山本、青山(途中から)、水村、栗田、六角、野村、小竹、安井、小高、望月、原、中橋各理事、中島、古屋、佐久間各監事

○欠席者 赤尾、村岡、濱田各常務理事、山口、水島、笹生、丸山各理事

1. 開 会

2. 会長挨拶

明けましておめでとうございます。羊蹄山でBCスキーの遭難がありました。彼らは雪崩ビーコン等機器の持っていて、使い方を知っているのでしょうか。

中国が日本人に対する入国VISA発給を停止したが、スポーツの世界にどんな影響が出てくるのでしょうか。我々は何らかの考察の必要があります。この会議が早く終わるようにご協力をお願いします。

3. 会議成立状況報告

理事数28名中21名出席、
監事数3名中3名出席
(定款第33条、定足数=15名(過半数以上))

4. 議長選出

会長が議長をつとめる。(定款第32条)

5. 議事録署名人

会長及び監事(定款第34条)
ホストは小野寺専務理事がつとめる。

6. 議 題

議案第1号 議事録の承認について

令和4年度第10回理事会議事録の承認について(事前送付済)、事前にメール送付しており、全員異議なく承認された。

議案第2号 令和5-6年度役員選考手順について

岳連向け、役員(理事・監事)向け、顧問向け、小野寺専務理事より資料に基づいて提案があった。資料について、一部訂正があったが、特に異議なく全員承認となった。

議案第3号 令和6年度叙勲について

小野寺専務理事より資料に基づいて提案があった。昨年は令和5年度候補として八木原前会長を推薦、現在J S P Oからスポーツ庁に書類審査が回っていて、最後は内閣府となる。本年も推薦者がいればほしいとの事。

議案第4号 第18回J S P O スポーツグランプリについて

小野寺専務理事より資料に基づいて提案があり、本協会に該当者がいるか、いればほしいとの説明があった。

議案第5号 総合デジタルプラットフォーム登録管理システムについて

蛭田常務理事から説明があった。夏山リーダー、自然保護ともに4月からの入力を目標としている。SKIMOは再来年度に

可能性があるが、仕様要件を固めている。選手の登録管理や成績管理も考えている。1月30日にスポーツ庁にてデジタルプラットフォームとJBSについて報告する予定である。

議案第6号 山岳スキー補正予算について(日本選手権、及びHP作成)

相良常務理事から資料に基づいて提案説明があり、小竹山岳スキー主管理事から補足説明があった。採決の結果、反対0、棄権0、賛成20で承認された。

続いて、謝金についての討議があった。安井理事から、SCの例の説明があった。JOCは最大1日30,000円を規定しており、JM S C Aは2022年はコーチ/セッター等考慮し、上限1日30,000円を決議したが、予算的な事もあり、実際の支払いは実現しなかった。2023年は予算的な事も考慮して、資格・ランク等に合わせることで実現していく。ただし、対象者の技量を適切に把握、評価したうえで厳正に適用していく。

小竹理事からは山岳スキー強化委員会に関しては、incomeが無いこともあり、全予算的に考慮していく旨の返答があった。強化の財源はJOCから、強化補助は8/10、但しユースは10/10、日当ではなく、謝金とする。謝金は10.21%の税金がかかる。これについて税務署の見解について、古屋監事が調査することになった。

議案第7号 スポーツクライミング日本代表選考基準について

安井理事が資料に基づいて提案説明を行い、採決を諮り、全員異議なく承認された。

議案第8号 第6期JM S C Aパリオリンピック強化選手選考基準について

安井理事が資料に基づいて提案説明を行った。特にアジア競技大会に限定したとの事。採決を諮り、全員異議なく承認された。

議案第9号 2023年スポーツクライミングユーススピード強化選手選考基準について

議案第10号 I F S Cクライミングユース世界選手権2023(韓国)スピード種目派遣選手選考基準について

上記2案については、安井理事が資料に基づいて提案説明を行ったのち、採決を諮り、全員異議なく承認された。

7. 報 告

報告第1号 JBS(JMSCA Business School)について

丸会長から報告があった。元々は西谷強化副委員長の発案である。スポーツ庁の組織基盤強化助成事業の一環で行っている。他の競技団体も行っているが趣旨が違う。選手のキャリア、自己分析の手伝いをする。講師も多岐にわたっている。受講生は現在募集中であり、15名は集めたい。

報告第2号 12月度の月次報告について

相良常務理事が資料に基づいて説明を行ったのちに、以下のコメントがあった。

・IT関連費用に関して決算において資産計上すべきものを調べてほしい。これから大会が続くので予算管理はしっか

りしてほしい。

・予算の管理責任者である各委員長にこの会計報告を見せるべきである。主管理事から委員長に通知するようにする。今回はキャッシュフローについての報告は、省略された。

報告第3号 新春懇談会について

小野寺専務理事が口頭で現状を説明した。

報告第4号 令和4年度全国理事長会議について

小野寺専務理事が資料に基づいて説明を行った。

報告第5号 UIAA総会、会長報告について

丸会長が資料に基づいて報告を行った。

報告第6号 B J C要項について

村岡常務理事の代りで百瀬競技副委員長が資料に基づいて説明した。チケット料金がウクライナの支援を盛り込みたい。

報告第7号 高校選手権の報告について

村岡常務理事の代りで百瀬競技副委員長が資料に基づいて説明した。

大会運営について百瀬氏の意見を聞きたいとの発言があり、運営の中心となるスタッフは無償で行うにはその範囲を超えている。有給職員に任せる時期が来ていると考える。

・SCがインターハイの種目になるように努力すべきである。観客動員も必要であり、今後運営についてPTを作るなどして検討すべきである。

報告第8号 山岳スキー日本選手権要項について

小竹理事が資料に基づいて、今年は雪が少ないが、少なくともsprintは行いたい旨の説明があった。

報告第9号 登山普及情報交換会について

望月理事が資料に基づいて募集現状について報告を行った。

報告第10号 ウィンタークライマーズミーティングについて

小野寺専務理事が資料に基づき企画について報告を行った。

報告第11号 SC技術委員会、セッター検定会及審判/セッター更新について

山本議理事が資料に基づいて報告を行った。

報告第12号 UIAA資格検定会について

蛭田常務理事が報告を行った。昨年の11月25日～27日に、担当のSteve Long氏が来日し神戸セミナーハウスにおいてUIAA査察を受けた。現時点で、メールレベルで、合格通知を受け取った。月報には発表する。10年前から各委員会含めて対応してきた。日本の登山のスタンダードにつなげたい。

監事の指摘事項に対する回答は、次回の理事会にて、総会/上半期における指摘事項、総会での正会員からの指摘事項について纏めて行いたい。

全国理事長会議の質問事項が沢山来ると思うので、回答を準備しておくこと。

報告第13号 役員派遣について

(1月13日(金)～2月8日(水))

(1)令和5年度新春懇談会

1月14日(土)10時30分～15時
於：アルカディア市ヶ谷

顧問、役員、委員長等
(2)令和5年度安全登山研修会打合せ
1月15日(日)10時～12時
於：アルカディア市ヶ谷 伊吹の間
小野寺専務理事、町田登山部長
(3)第18回ボルダリングジャパンカップ
2023年2月4日(土)～5日(日)
於：駒沢オリンピック公園総合運動場屋
内球技場、丸会長、村岡部長他

8. 会務・役員派遣

(12月9日(金)～1月11日(水))
(1)JOC専務理事会議
12月16日(金)
於J.S.O.Sビル14F会議室
小野寺専務理事
(2)第13回全国高等学校選抜スポーツクライ
ミング選手権大会
12月24日(土)～25日(日)
加須市民体育館
丸会長、村岡部長
※指導委員会からコーチ認定の承認申請が
あり、常務理事会で以下の内容が承認さ
れた。理事会においては報告とする。
・関西ブロック(兵庫県会場)1名が合格し
認定された
認定者 ①川添剛志
・九州ブロック(宮崎県会場)11名が合格し
認定された
認定者 ①阿南真之、②川西智子、③福
元敏行、④大飛祥子、⑤桐山雄一、⑥奥
野孝太、⑦沼田美香、⑧楠田淳史、⑨浜
島彰吾、⑩金子敦彦、⑪西野能史
・北信越ブロック(新潟県会場)7名が合格認
定された
認定者 ①田中勉、②坂井春香、③大月
英理香、④栗田湖有、⑤野間啓太、⑥野
間共美、⑦吉谷知将

以上
2023年(令和5年)1月12日(木)
記録 小野寺 斉



令和4年度 第12回 ハイブリッド開催 理事会・議事録

○日 時：令和5年 2月 9日(木)
14:00～16:55
○場 所：J.S.O.Sビル3F会議室1と
Webのハイブリッド会議
○出席者：丸会長、亀山、小日向、
古賀各副会長、小野寺専務理事、相良、
村岡、蛭田、濱田、赤尾、町田各常務理事、
前田、山本、青山、水村、安井、栗田、山口、
六角、水島、野村、小竹、笹生、原、小高、
望月、丸山、各理事、中島、古屋、佐久間
各監事
○欠席者 中橋理事

1. 開 会 2. 丸会長挨拶

先月末の山岳スキー日本選手権は無事終
了し、また、先週のBJCでは1600名の入場
数となり、皆様のご理解とご協力に感謝しま

す。メディアの露出が思ったより少なく、一
部課題として残ったが、新しいスポンサー
の皆様にもよいアピールの場となったので
はないかと思う。本日も盛りだくさんの議題
があるがよろしくお願ひしたい。

3. 会議成立状況報告
理事数28名中27名出席
監事数3名中3名出席
(定款第33条、定足数=15名(1/2以上))
4. 議長選出
丸会長が議長を務める。(定款第32条)
5. 議事録署名人
会長及び監事(定款第34条)
ホストは小野寺専務理事が務める。

6. 議 題(注:審議順に記載)
議案第1号 議事録の承認について
令和4年度第11回理事会議事録の承認に
ついて(事前送付済)異議なく承認された。

議案第2号 令和5年新年表彰者の追加に
ついて
長野県山岳協会 浮須由実氏について
小野寺専務理事が、配布資料を基に説明
した。

先日の新春懇談会の表彰対象者とすべき
ところ、長山協と事務局の間で、推薦書申請
書の送受信もれで、理事会承認対象から漏
れてしまった。改めて承認をお願いしたい
旨の説明をし、異議なく承認された。

議案第3号 JMSCA加盟団体振興推進
プロジェクトチーム(以下P
T)からの提案について

亀山副会長が、当内容を全国理事長会議
に提案することを前提に理事会承認を得た
いので、以下の議案1と2について説明し、
次の質疑応答があった。

議案1.47都道府県国体予選競技大会に対
する財政的支援について

議案2.都道府県加盟団体からの国体・SC
競技に関する質問等への対応について
当件について財源はどうか、10万円
の根拠は何か、すべての都道府県一律がよ
いか、報告書の提出を求めるか、使用用途を
限定するかといった質疑応答を経たのち、
各都道府県に10万円を一律に助成する案の
採決がとられ、以下の通り承認された。

反対1人(山本理事)、棄権0人、賛成25人
また、報告書提出の義務を付するかどう
かは、PT内で再検討することとなった。

議案2.国体・SC競技に関連する質問等
への対応について、問い合わせ窓口の設定
を含む(1)から(4)の項目があり、異議な
く承認されたが、FAQの作成部署や、国体
部の設定提案等の意見も出され、これらに
ついては、引き続きPT内で検討を続けるこ
とになった。

議案第4号 令和5年度役員選考委員会の
選任について

小野寺専務理事が、配布資料を基に、委
員候補者の提案をした。

その後、今度退任される六角理事を入れ
るかどうかの採決がとられた。

反対(原案のままでよい)7人、賛成(1名
をはずし六角理事を入れる)15人、その他4
人。

その結果、六角理事を委員会メンバーに
加える代わりに1名を外すこととなった(役

員選考規程に則り9名以下とするため)。
以下の9名のメンバーとなった。

1. 吉田 春彦 (一社)岩手県山岳・スポー
ツクライミング協会
2. 西内 博 茨城県山岳連盟
3. 山田 雅昭 (一社)広島県山岳・スポー
ツクライミング連盟
4. 宮原 敏明 佐賀県山岳・スポーツク
ライミング連盟
5. 六角 智之 JMSCA理事
6. 田中 文男 JMSCA顧問
7. 八木原園明 JMSCA顧問
8. 尾形 好雄 JMSCA参与
9. 萩原 崇宏 JMSCA顧問弁護士
事務局 小野寺 斉、赤尾 浩一

議案第5号 山岳スキー補正予算について
相良常務理事が、配布資料を基に説明し
た。

今回、IF役員獲得プログラムで、JOC
国際部に128万円を申請しているの、その
分の収入、支出を追加した。その後採決に移
り、以下のように異議なく承認された。

反対0人、棄権0人、賛成26人
議案第6号 組織管理運営規程の改定につ
いて

町田常務理事が、配布資料をもとに組織
管理運営規程の変更案の説明をした。

現行の規程では、各委員会の業務が円滑
に遂行できないことが予想されるので、常
任委員及び専門委員は最長5年までの制限
を撤廃し、委員長のみ委嘱後最長10年に制
限するように変更する提案(原案通り連続を
入れない)で、採決を行い、以下のように異
議なく承認された。

反対0人、棄権0人、賛成26人
議案第7号 公認ルートセッター規程の改
定について

山本理事が、配布資料をもとにスポーツ
クライミング公認ルートセッター規程で第
5条(認定と昇級)第5項を削除する変更案
の説明をし、異議なく承認された。

反対0人、棄権0人、賛成26人
議案第8号 2023年ボルダ―日本代表選考
リストについて

安井理事から配布資料を基に説明した。
今回のリストの選手は、選手選考基準に則っ
て選んだ選手で、異議なく承認された。

反対0人、棄権0人、賛成26人
議案第9号 令和5年度事業計画について

小野寺専務理事から配布資料を基に説明
した。次回に承認をいただきたいこと、及び
国体の記述(特別国体)、日時等に変更が必
要な旨を話した。

議案第10号 令和5年度予算案について
濱田理事が配布資料を基に説明し、異
議なく承認された。

反対0人、棄権0人、賛成26人
最終的には3月理事会での承認になる。

議案第11号 アスリート委員会からの意見
について

栗田理事から配布資料に基づいて、アス
リート委員会から以下の2点の問題提起が
されたことの説明をした。

1. ウクライナ支援使用目的について
支援金額確定後、使用目的については、当
件は大会の実行委員会協議、提案して

いただくことになった。

2. メディアカメラマンに対する誓約書について

当誓約書の内容自体は、以前からやっていることで、今回新たな依頼をしたわけではない。代表者であるが、これは、社長でなくても現場の責任者でよい。

当内容は、大会実行委員会内で周知するようにし、内容の変更が必要であれば理事会に提案することとなった。

7. 報告 (注. 報告順に記載)

報告第1号 1月度月次報告について

相良常務理事から配布資料を基に説明した。

報告第2号 キャッシュフローについて

赤尾事務局長から現状(1月31日時点)の現金残額から、3月中下旬に1000-2000万円現金ショートする予想で、更なる借入金で対処する予定と説明。監事から借入金額枠を増額(4000万円->8000万円)することの理事会承認が必要との指摘から、借入限度額増額の採決を取り、以下のように異議なく承認された。

反対0人、棄権 0人、賛成26人

報告第3号 令和4年度全国理事長会議について

報告第4号 総会/上半期における監事の指摘事項について

報告第5号 総会での正会員からの指摘事項について

上記3報告は、小野寺専務理事が、配布資料を基に説明し、各自読んで理解してほしいと要請をし、監事からのコメントを求めた。

以下は、監事からのコメント

*忙しい中、責任者の皆さんに回答いただき感謝している。

*引き続きキャッシュフローのモニターを継続していただきたい。

*対応する内容については、期限を明確にして実行していただきたい。

*これからも監事の立場から指摘するが対応をお願いします。

報告第6号 登山普及情報交換について

報告第7号 BJCについて

報告第8号 山岳スキー日本選手権について

報告第9号 UIAA資格認定証書について

上記については、小野寺専務理事が、各自配布資料をよく読んで、理解するよう要請した。

報告第10号 公認、C級ルートセッター検定会報告について

報告第11号 SC競技規則の一部改定につ

帰れない山



第75回カンヌ国際映画祭 審査員賞受賞作

監督・脚本： フェリックス・ヴァン・ヒュルニンゲン『ビューティフル・ボーイ』& シャルロット・ファンデルメルシュ

原作：「帰れない山」著：パオロ・コネッティ 翻訳：関口英子(新潮 Crest・ブックス)

撮影：ルーベン・インペンス『TITANE / チタン』

出演：ルカ・マリネリ『マーティン・エデン』、アレッサンドロ・ボルギ『ザ・プレイス 運命の交差点』、フィリッポ・チーミ『愛の勝利を ムッソリーニを愛した女』、エレナ・リエッティ『3つの鍵』

原題：Le Otto Montagne / 2022 / イタリア・ベルギー・フランス / イタリア語 / 147分 / 1.33:1 / 日本語字幕：関口英子

配給：セテラ・インターナショナル

© 2022 WILDSIDE S.R.L. - RUFUS BV - MENUETTO BV - PYRAMIDE PRODUCTIONS SAS - VISION DISTRIBUTION S.P.A.

<http://www.cetera.co.jp/theeightmountains/>

2023年5月5日(金) 新宿ピカデリー、
シネスイッチ銀座、シネ・リーブル池袋ほか全国公開

いて

報告第12号 後援名義、協力名義について 大阪チャレンジ登山、京の子供ダイヤモンドプロジェクトについて

上記については、配布資料を基に本日の常務理事会で承認されたことの報告を行った。

報告第13号 業務執行理事の職務執行報告について

配布資料を基に各自説明した。

以上
2023年(令和5年)2月9日(木)
記録 赤尾 浩一

〈訂正とお詫び〉

登山月報 No647号 13ページの令和4年度第9回ハイブリッド理事会 議案第10号 UAAA(アジア山岳連盟) 創立30周年記念大会の内容について間違いがありました。以下のように訂正してお詫び申し上げます。

(誤) *新潟県山岳協会内部でやりたいという希望を持っている。小野寺専務理事がUAAAに訪問した時に説明したい。アジア山岳連盟の予算で行う。

主管は、NFだが実働は新潟山岳協会、とありますが、

(正) *小野寺専務理事がUAAA訪問した時に説明したい。アジア山岳連盟の予算で行う。主管は、NFで行う。、

8月号より開始! かすみちゃんのハイキング日記



表紙のこぼれ

ゴールデンウィーク (GW) は35年前から利尻山に通っていたが、同山のバリエーションルートも地球温暖化の影響を受けて近年は残雪が少なくなっており、脆い岩肌が露出して登りづらくなっている。写真は2019年4月30日のものであるが、頂は南峰でバットレスが真っ黒な岩肌となっている。最近では4月中旬が適期だと言われており、GWは利尻山以外の山を計画しなければならなくなってきた。

(写真提供: 北海道山岳連盟 石井昭彦)

編集後記

コロナ渦の雰囲気が薄くなり、電車の中でもマスクをしていない人をちらほら見るようになりました。コロナはインフルエンザと同等に位置づけられるようで、だんだんとコロナ前に戻りつつあります。先週土日で山に行った帰り14時30分ごろに温泉に入り諏訪南ICより帰宅しましたが、結構な渋滞にはまり家には、20時に到着しコロナ前の渋滞を思わせるようでした。

高速道路で周りの車を見るとなんか前よりも高級車が多い気がします。ホテルも食事もみんな高級志向になり、山小屋の1泊2食が14,000円、テント場代が2,000円/人の時代です。山屋に残された領域は沢登りか?

(蛭田伸一)

一般社団法人 日本トレイルランニング協会

〒141-0031
品川区西五反田6-3-23-205
☎03-3492-0355 FAX 03-6451-3767

登山月報 第649号

定価 110円 (送料別)
予約年間 1,300円 (送料共)
(毎月1回15日発行)

発行日 令和5年4月15日
発行者 東京都新宿区霞ヶ丘町4番2号
Japan Sport Olympic Square 807
公益社団法人
日本山岳・スポーツクライミング協会

電話 03-5843-1631
FAX 03-5843-1635

山岳
雑誌

岳人

がくじん

山と人、時代をつなぐ「岳人」

5月号
発売中

【特集】連休の山を楽しむ

★モンベルのウェブサイト
全国のモンベルストアや書店にて発売中!

毎月15日発売 価格990円(税込)



年間購読がおすすりめです

購読割引 送料無料 限定品プレゼント
年間購読なら、お得な価格で毎月お手元に冊子が届きます。

通常価格12冊 年間購読なら12冊 1冊分おトク!

~~10,800円~~ (税込) → **9,900円** (税込)
11,880円(税込) 10,890円(税込)

年間購読特典

岳人 U.L. ショルダーバッグ



3色のうち1色をお届け。
※カラーはお選びいただけません。
軽量で丈夫な生地を使用。
登山中のサブバッグに!

限定デザイン

岳人カード

全国2,000カ所以上で
ご優待!



全国の温泉や山小屋など提携施設で
さまざまご優待が受けられるカードです。

年間購読のお申し込みはこちらから! >>>
<https://www.gakujin.jp/>



全国の
モンベルストア
でも受付中!

お問い合わせ
モンベルポスト



0120-982-682 / TEL 06-6538-5797
※フリーコールは携帯・IP電話からはご利用いただけません。

SDGsで、未来をつなぐ

三井住友海上は、安心と安全の提供を通じて、持続可能な社会の実現に取り組みます



SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



SDGs (Sustainable Development Goals)とは

2015年の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」に掲げられた包括的で持続可能な社会の構築を目指す「持続可能な開発目標」のことです。

持続可能な地球環境		安心して暮らせる社会		活力のある経済活動	
関連する主なSDGs	主な取組	関連する主なSDGs	主な取組	関連する主なSDGs	主な取組
12, 13, 14, 15	<ul style="list-style-type: none"> 再生可能エネルギーの普及支援 自然災害リスクモデルにもとづくコンサルティング 	1, 2, 3, 4, 5, 6	<ul style="list-style-type: none"> 健康づくりの支援 先進技術を活用した利便性の高いお客さま対応 	7, 8, 9, 10, 11	<ul style="list-style-type: none"> 次世代モビリティ社会への対応 (自動運転車等) 災害に強いまちづくりの支援

立ちどまらない保険。

MS&AD 三井住友海上

三井住友海上は、レジリエントでサステナブルな社会*をめざします。

*外部環境にしなやかに対応する、持続可能な社会



登山者のマナー 山岳保険

あなたのは山岳保険ですか？

- 傷害死亡・後遺障害
- 遭難搜索費用
- 救援者費用
- 傷害入院
- 傷害通院
- 傷害手術
- 日常生活賠償

日山協 山岳共済会

〒170-0013東京都豊島区東池袋3-7-11-707

TEL 03-5958-3396 FAX 03-5958-3397

E-mail sangakukyousai@mbd.ocn.ne.jp

月曜日～金曜日 10:00～17:00 (祝日除く)

携帯からも資料請求ができます。
<https://sangakukyousai.jp>



「MAMoL マモル」
山を愛する人たちの共済会を～

WEBからもお申込みいただけます